

<国際金融パネル>

ブロックチェーン技術による次世代型決済ネットワークについて

SBI Ripple Asia 株式会社 / SBI 大学院大学 沖田 貴史

<報告要旨>

現在、銀行間の決済においては、外為では「SWIFT」、邦銀間では「全銀ネット」のような中央集権型ネットワークを活用する方法が一般的である。これらに代表されるハブ・アンド・スポーク型の決済ネットワークは、数多くの金融機関を接続する際に、効率的な仕組みであり、セントラルカウンターパーティーとして、資金決済も一元的に解決することで、参加金融機関に効率性を提供している。

一方で、中央ネットワークが停止してしまうと、全ての送金が行えなくなってしまうため、中央ネットワークの高稼働率を維持していくための負荷やコスト負担が課題となる。また、インターネットの普及以降、加速度をます金融イノベーションの成果を取り組むにあたっては、中央ネットワークがボトルネックになるケースも散見されるようになっている。

これらの課題を解決するために、ブロックチェーンに代表される新技術を活用した次世代型の決済ネットワークが登場している。

その代表例である **Ripple** 社の決済ソリューションは、中央機関を介さずに、各金融機関がピア・ツー・ピアで接続できる分散台帳技術の特徴を生かし、リアルタイムで安定性・透明性の高い決済を提供しており、国際送金に新たな付加価値を提供している。

日本においては、フリクションレス・ペイメントを通じて、キャッシュレス化を促進するために、国際送金だけでなく、国内送金も技術的に一元化するコンソーシアムが立ち上がり、決済基盤に加えて、インスタントペイメント・アプリも開発されている。

本報告では、**Ripple** 社のグローバル・日本での取り組みをビジネスケースとして、取り上げ、ブロックチェーンを用いることのメリットに加え、実用化に向けた課題についても、議論・考察していく。